

○議長（堀内春美さん）

続いて、通告7番 3番 依田誠司君の一般質問を行います。

3番 依田誠司君。

○3番議員（依田誠司君）

私の質問はちょっと今までと変わりますが、今、ゆるキャン△というアニメを知っておられる方、名前くらい多分聞いていると思いますけれども、そのことについて、ちょっと質問させていただきます。今年9月1日から、来年1月末までに行っている、ゆるキャン身延&富士川町巡って集めて楽しもうキャンペーンの経済効果が非常に高いのです。第2弾も考えているのか伺いたい。よろしくをお願いします。

○議長（堀内春美さん）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。現在行っている、ゆるキャン△キャンペーンは、富士川町と身延町で共同開催しており、参加店で500円以上の商品購入やサービスを利用し、合言葉を伝えることで、トレーディングカードがもらえるキャンペーンとなっております。参加店舗のなかには、わずか10日程度で200枚のカードの配布があり、追加申込みをした店舗があるなど、経済効果の大きさを実感しているところでございます。今後は、このキャンペーンの事業検証や評価について、商工会で行った結果を踏まえ、次の事業に向けて検討して参りたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

依田誠司君。

○3番議員（依田誠司君）

再質問です。今年7月1日から、アニメゆるキャン△の映画が放映されました。舞台が富士川町であったことから、さらに注目が高まっております。ゆるキャン△は、原作累計発行部数700万部を超える大ヒット作品です。経済効果は高く、山梨県が舞台の中心であったアニメ第1期放送後の2018年4月から19年1月に開催されたスタンプラリーや、音楽祭など5つの関連行事に約6300人が参加。参加費のほかに県内業者が企画した地域グッズお土産などの消費額は約、計8600万円に上ると推計されています。なかでも2018年にあった音楽祭参加者の県内消費は、1人あたり2万5200円と、県内の平均観光額の約2倍に上がりました。また、舞台の中心であった身延町のふるさと納税は、2017年度は例年と比べ件数が1.2倍、納税額が約8倍に増加しています。昨年度は、件数、納税額がさらに増加して今までで1番になっています。ふるさと納税は、あまり積極的でない身延町ですが、これだけの増

加です。ぜひ本町も力を入れていただきと思いますけど、その考えは町長いかがですか。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまのご質問にお答えいたします。まさにゆるキャン△ブームという形で、本年度は非常に町内にも観光客が訪れたということでございます。また、ご指摘のとおり、映画の中の出場シーン、この富士川町を題材にされたというような雰囲気のところがたくさん出ているところでございます。こうした機運をしっかりと盛り上げていく、身延町はふるさと納税という形で、非常に高い効果を上げているところでございます。我が町もふるさと納税をしっかりと、真水で税収が入る原資でございますから、ここを力をいれていくこと、これは間違いない話でございます。さまざまなアイデアをしっかりと早急に時期を逸しないように取り入れながら、積極的に進めていきたいというふうに思っているところであります。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

依田誠司君。

○3番議員（依田誠司君）

若干、被るところもありますけど、2番の質問にいかせていただきます。ゆるキャン△ファンは、リピーター率が高いと感じていますが、町の観光振興にどのようにつなげたいか伺いたいです。

○議長（堀内春美さん）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。キャンペーン以降、ゆるキャン△ファンの中には、何度も富士川町を訪れてくれている方もいらっしゃいます。また、ファンの方にゆるキャン△のモデル地となったスポットへの案内をしたり、観光パンフレットを配布していただいたりしている参加店舗もでございます。町としましては、このキャンペーン事業をきっかけとしまして、まずは、富士川町に来ていただき、その後は、キャンペーンがなくても富士川町を訪れるファンの方が増えるよう引き続きPRを行っていくことが重要であると考えております。

○議長（堀内春美さん）

依田誠司君。

○3番議員（依田誠司君）

再質問です。商工会の資料によりますと、このキャンペーン事業は富士川町

の参加店舗は47店、500円以上のお買い上げでカードをお渡しします。12月上旬時点の把握できる範囲で、最低単価500円で計算しても738万500円以上の効果がありました。ということは、785万円で500で割りますと1万4761枚出ているということなんで、1万4761人は最低来てるんです。私の感じているところでは、1人ではなく2人とか3人とか、家族で来たり、2泊、中には1週間くらい泊まる人もいます。そういうことで、来店客は関東、東海地方が中心に、遠くは北海道札幌、九州は私の知っている範囲なんですが、福岡からも来ています。カード集めで巡ることで、食事や宿泊、買い物、観光と幅広い波及効果が出ています。さらに、ゆるキャン△ファンがSNSをやっている人が多くて、多数発信しております。この機会を逃さずに積極的に取り組んでいただきたいと思います。町長、さっきのこととだぶりますが、本当に力を入れたいと思いますけど、町長はほんとに力を入れるか、もう一度発言していただきたいです。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。本当に許せる限りの、条件もあります。条件が許す限り、積極的に町を活性化したい、ここに議場にいるみんなの思いだと思います。その思いがどういう条件をクリアできるかということ、これを積極的に検討していくことが大事だというふうに思っているところでございます。気持ちはやれることはみんなやりたい、こういう気持ちでいます。その中で、限られた条件の中で何を選択していくかということ、しっかりと精査して進めていきたいというふうに思っているところでございます。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

依田誠司君。

○3番議員（依田誠司君）

はい、力強い表明ありがとうございます。本当にこれをチャンスに第2弾、第3弾考えて、私だけではなくていろいろな人の話を聞きますと、本当にゆるキャン△ファンというのは、富士川町だけではないです、身延町の話を聞いても路地から路地まで入って、私も結構詳しいほうなんですけど、そういう道まで入って来る。町の良さをよくわかってきている。すごく人が丸いというか、何も、いろいろ文句を言う人はほとんどないし、インスタグラムとかそういうのを見ても、ツイッターとかを見ても、すごく良いような意見をやっているの、受け入れ側が気持ち良く受け入れれば、これは今すぐではないけど、観光には繋がるけど、もしかしたら移住とか、そういうことが、もしかしたら企業

の誘致にも繋がっていくんじゃないかと。こういう言い方はちょっと失礼なんですけど、来る人に話を聞いたことがあるんですけど、1週間も休んで大丈夫ですかと言うと、ある人はサービス業なんですよ。サービス業で盆、正月は休めないから1週間そのためにやっていると、正規、非正規という言い方は失礼なんですけど、正規雇用の人が結構多いです。オタクは、意外に自分はアルバイト、パートばかりと思っていたんですけど、それだけ本気になっていただければ、たくさん富士川町の良さを知ってもらえれば、たくさん波及しますので、ぜひ、よろしくお願いします。

次の質問に入ります。2番目ですけど、第二次富士川総合計画での後期人口見通しについてですけど。平成30年の人口が1万5263人でした。令和7年の見通しが1万5270人となっていますが、令和4年10月1日現在の人口は、1万4361人と下回っていますが、人口減少はすべての政策に大きな影響を及ぼしてきます。後期計画での見直しを考えているか伺いたいです。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 早川竜一君。

○町長（早川竜一君）

ただいまのご質問にお答えします。第二次富士川町総合計画は、平成30年度から令和7年度までの8年間を実施計画期間と定め、町民とともに創り上げる協働によるまちづくりの指針として、平成30年10月に策定した計画であります。この計画では、令和7年の目標人口を1万5270人と定めておりますが、これは国が示す長期的な人口の将来展望を勘案し、平成27年に策定した富士川町人口ビジョンにおいて設定した、令和42年の目標人口を1万6000人とする、人口ビジョンに基づく数値であります。こうした中、令和7年の目標人口は、現時点の人口と比較し、既に約900人下回っておりますが、目標人口の見直しは、総合計画、及び人口ビジョン、並びに総合戦略との関連性が高く、一体的な検討を行う必要があると考えております。こうしたことから、後期計画中の目標人口の見直しは行わず、次期総合計画および総合戦略の策定に合わせ、人口ビジョンについて見直しを行って参りたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

依田誠司君。

○3番議員（依田誠司君）

はい、言っていることはわかりましたけど、もう一度説明をしてもらいたいですけど、再質問です。先ほどの答弁の中で、富士川町の令和42年度の目標人口1万6000人に設定とありましたが、その根拠をもう一度教えてください。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 早川竜一君。

○町長（早川竜一君）

ただいまのご質問にお答えします。平成27年に富士川町で人口ビジョンを策定しました。当時、国において人口の将来展望を、国は1億人を目標としました。また、山梨県においては100万人としたことから、本町においても国や県の目標人口と合わせて、より積極的でより戦略的な目標として、現状を維持して1万6000人と定めたところが根拠になります。以上です。

○議長（堀内春美さん）

依田誠司君。

○3番議員（依田誠司君）

はい、わかりました。人口ビジョンを1万6000人として、国、県の方針のとおりにやったということはわかりますが、人口減少は、町の将来設計の根幹になると思うんですよね。次期ということより、今からでも走り出さないとできないと思うんですけど、そのへんは後期計画の中に盛り込むことはできないんですか。そのへんをちょっと町長ご意見をお願いします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 早川竜一君。

○町長（早川竜一君）

ただいまのご質問にお答えします。先ほどの最初の答弁と重なりますけれども、総合計画の人口を見直しするという事は、人口ビジョン、そして総合戦略、3つがセットになっていますので、総合計画だけの人口を見直ししても、それに基づく総合戦略の数値と整合性が図れなくなりますので、先ほどの答弁の繰り返しになりますが、その3つをセットにして一体的な見直しを今後行っていきたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

依田誠司君。

○3番議員（依田誠司君）

言われていることは確かにわかりますけど、本当に人口減少というのは、急激になっているんで、高齢化と。どっちみち見直しをしないといけないと、今のやり方は無理なんで、もし、ビジョンをすぐに見直さなくても、せめて、もう少しみんなで検討する、庁内でもそういうところを作ってやっていければ、次の計画、総合計画だから大まかなんですよね、だからそういうところをもう少し、次の総合計画後半がもう過ぎている。本来なら昨年度が見直しですよ、始まるのが。今年度はもう出ていないとおかしいくらいなんですけど、いろいろあったので、それで遅れていると思うんですけど、これは早急に、本当に、先ほど政策秘書課長が言われたように、すべてに関わってくるんで、私も承知して

ますから、すべてに関わってくるから早めに取り掛かって欲しいと、はい。
できましたら、町長の言葉でホームページとか広報などにそういうことを町の
住民は知らないことも多いので、こういうふうにしていきたいってことを早め
に、早めに語っていただきたいと思います。そのへんは町長いかがですか。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまのご質問にお答えいたします。人口減少というのはですね、本当に
議員のご指摘のとおり、さまざまな面に影響を及ぼすものでございます。ただ、
これ目標値を上向きにしたとか、改正しただけで、人口が増えるということでは
ありません。実は今も積極的にやっているとおり、子育て支援政策、そして
観光政策、移住の政策、そういったものをフル稼働して連動して上向きにさせ
ようという努力をしています。ただその角度が、これまでの角度よりその人口
が減ってきている。でも上向きさせようという努力はずっと続けているわけで
ございます。その見直しということですね、数値的なものの見直しというこ
とですね、やるタイミングが、さきほど政策秘書課長が答弁したとおり、次
期総合計画に合わせて、しっかり現状と合ったような計画に変えていこうとい
うことでございます。人口を現状維持のみならず上向きにしていこうという努
力はですね、ずっとずっとこれからも続けていきたいというふうに思っている
ところでございます。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

依田誠司君。

○3番議員（依田誠司君）

はい、確かに承りました。よくわかりますけど、もう一度言いますけど、早
め早めに、町長も政策秘書課長も言われてますけど、本当に早めにやっていっ
てください。以上で質問を終わります。

○議長（堀内春美さん）

以上で通告7番 3番 依田誠司君の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩します。

休憩 午後3時 6分

再開 午後3時15分